

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年8月28日(金)

### 《この世の最期の瞬間のために・・・》

今日の福音(マタイ 25・1 13)も昨日に続いて、イエス様が終末についてたとえ話しをされています。この話を聞けば、みんな納得できますよね。いつでも準備する心、準備する態度、準備ができている振る舞いを見せなければならぬと誰でも分かります。それなのに、私たちは仕方なく、毎日それを忘れて生きていますね。

さあ、ある銀行で、貯金をすれば利子が30倍、40倍につくという噂がたてば、何日も経たないうちに全ての人がそれを耳にするでしょう。そして、たくさんの人々が、貯金をしようとその銀行に集まるでしょう。そう思いませんか。もし群馬銀行で、100万円貯金をすれば1年で1000万円になる、という話があれば、私でも走って行って、人にお金を借りてでも貯金をすると思います。それが人の心です。しかし、30万円貯金をして、10倍、30倍の利息がつく銀行がこの世の中にあると思いますか？ありませんよね。いくら目を覚まして待っていても、そのような銀行は現れないでしょう。

ところで、イエス様は、種のとえ話の中で何とおっしゃいましたか？根をおろした種があれば、30倍、60倍、100倍の実を結ぶとはっきりおっしゃいましたね。私たちは信仰の生活をしています。ときには、イエス様に「主よ、主よ」と叫びかけもします。それなのに、命をかけるほどにはイエス様の言葉を信じていないような気がします。30倍、60倍、100倍に、その実が実ると約束された世界をあまり望んでいないように見えます。しかし、望むべきです。

人が亡くなる最期の時をよく見守ります。その時に、この方はなぜこのようにおだやかな顔で、希望を持っているような顔で、死を迎えられるのか、と司祭である私でもびっくりするくらいの方が結構いらっやいます。逆に、いつも教会で大きい役割を持っていて、毎日教会に来ているのに、なぜこんなにこの世に未練を持っているのかと思うくらい死を拒もうとする人々もたくさん見てきました。その中で、私が感じたことは、「死を迎える時に、笑顔で、希望に満ちているような顔をしている人々からは、信仰を感じる。」ということでした。「『死』を怖がる対象としてではなく、イエス様が約束してくださった国に入る、一番大事な時と考えて祈っている。」そう感じさせられるのです。

結局私たちは、準備をしなければなりません。信仰の立場で、霊的な心で、『死』を怖がるものではないと考えれば、この世の中の生き方に意味を見出せるのではないのでしょうか。「約束された国に入るためには、この世の中で過ごさなければならないし、果たさなければならないことがある。毎日出会う人々、出会う時間に意味を作らなければならない。」そういう気持ちに満たされなければならないのではないかと思います。もちろん、心配があると思います。怖がることもあるし、がっかりすることもあるでしょう。そして、わけも分からない恐怖でいっぱいになることもあると思います。しかし、その中で、「意味があった。もう今死んでもいい。」と思えるような生き方を望まなければならないのではないかと、この福音を読んで考えてみました。

とにかく、最期の時に「愚かな者か、賢い者か」判断されます。それは、本当に短い時間で決められます。その前に、「本当によく頑張った。お疲れ様。」と言われるような生き方をしなければならないと思います。

その実がどのようなものか分かりませんが、必ず30倍、60倍、100倍に実を結ぶと約束されたことを強く信じましょう。今は、難しいことがたくさんあっても、もっときれいにこの世の中を生きれば、その結果が私たちに与えられると思います。

一番大切なことは、この世の最期の瞬間でしょう。その時のために、本当に心をこめてこの世を愛しましょう。

ありがとうございました。